



ほけんだより 9月号

2025年9月1日
昭和ナースリー
看護師

9月1日は
防災の日



災害に備えよう！

9月1日は「防災の日」です。災害が起きた時の被害を最小限にするためにも、日頃の準備や対策が大切です。家の中や周りの点検、非常用持ち出し袋のチェックなどをします。食料や水などの備蓄品は最低3日分準備します。災害に備えて家族で準備をしておきましょう。



9月9日は救急の日



休日・夜間の急な子どもの病気で、受診した方が良いのか様子を見ても大丈夫なのか判断に迷った時は、こども医療でんわ相談を知っておくと便利です☎

こども医療
でんわ相談 #8000



Q. #7119と#8000、
どちらに相談すればいい？

A. 下記の表にまとめてみました！

#8000は家庭で保護者がどうしたらいいかを中心に、
#7119は緊急受診の必要性に照準を合わせています

	#7119	#8000
	救急相談センター	こども医療でんわ相談
管轄	東京消防庁	厚生労働省 東京都福祉局
対応時間	24時間 年中無休	月曜日～金曜日 午後6時～翌朝8時 土日祝・年末年始 午前8時～翌朝8時
対応者	医師・看護師 救急隊経験者 等	小児科医師 看護師・保健師 等

#7119は消防に直結しているので、すぐに救急車を呼ぶかもしれないと思う時は#7119の方が、家庭での対処方法や状態の観察ポイントをくわしく知りたいと思う時は#8000の方が、より適しています。また、0～1歳児の相談は、小児だけを対象にした#8000の方がいいかもしれません。

乳幼児がいる家庭での非常時の備えとして、

1週間分【紙おむつ 100枚】・【おしり拭き 200枚】を目安に常にストックしておくと思えます😊

災害時には、下痢など体調を崩す乳幼児が多くなることを想定すると、オムツの使用枚数は多めに見込む方がいいです。また、子どものサイズアウトしたオムツは、災害時に大人用簡易トイレに使用できたりもするので、処分せずに取っておくのもアリです！！

強い日差しに注意！ 思わぬ場所でやけど

事例1

自宅のベランダから泣き声が聞こえ、母親がかけつけると子どもが左足を痛がっていた。避難はしこが入っている金属の板が熱かったため裸足で立ってやけどをした。(当事者：1歳)

国民生活センターより抜粋

事例2

外出した際、道に敷いてあった鉄板につまずいて転んだ。鉄板は道路の段差をなくすために敷いてあった。子どもはハーフパンツで、転んだ時に、右足のひざ下の裏側が鉄板について座ったような格好で5秒ほどそのままの姿勢だった。鉄板の凹凸のような網目模様の水ぶくれができており、やけどをしていた。(当事者：6歳)



©Kurosaki Gen

昭和ナースリー 8月感染症報告

- アデノウイルス感染症 2名(くま組)
- 溶連菌感染症 1名(くま組)

【乳児医療証】更新のお願い

乳児医療証の有効期限が9月末日で切れます。9月中に世田谷区から郵送される新しい乳児医療証がお手元に届き次第、**乳児医療証のコピー(1部)を園に提出してください。**

⚠ 強い日差しで熱せられた公園遊具や屋外にある金属製品の表面部分、コンクリートやアスファルトなど思いがけない場所にやけどの危険が潜んでいます。暑い時期は特に気をつけましょう。

⚠ 子どもは、大人に比べ皮膚が薄いことや体が小さく体表面積が少ないことなどから、やけどをすると重症になる傾向があります。子どもが活動する

ところに高温になるものがないか確認し、肌の露出が多い服や裸足は避けましょう。

⚠ 子どもの成長に伴う行動の変化に応じて、子どもの身の回りにやけどなどの危険がないかチェックしリスクを低減していきましょう。子どもが自分で事故を回避できるよう、製品や遊具等の正しい使い方や危険な場所など、身の回りの危険について教えておくことも大切です。